

當家子始之次牙
鳴弦
產屋
同次牙
誕生墓目



丑殿田書

mayi 8



山云水永天 其卷二 仙舟 東洋渡 字樣中

人種 内統二山 其之 如 集 九 年 延 考 院 爲

三 可 然 知 之 身

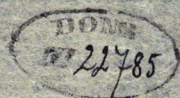
明 迄 八 身 十 月 廿 日

日 不 五 年 延 長 仁 仁

曙 川 本 沈



弓姪之次子



己未年

音家ら始くは才

一 初まなり可勅家之秘事ぬきハ務尔に人ハ
是を知る人なり人にも多ク見物振をいふ
は之振如所ハ夜ハ入行ハ世時ハ的のそむは疏
陽と陽庭ハ直目とけしけり

一 内場と弓場の間ハ年三枚年ハ意敷年
内場ハ村ハ法將家ハ法ハ信三ハならむと角
前子ハ的ハ金ハ是

一 弓を引ハの事奉村ハ里ハやハととも
主殿ハ内場をさしハとて述ハす也ハ相ハ遠ハあり
一の事ハ之ハかきハて立ハ法敷ハ三十六也
則地ハ三十六金と表ハすハはハるハ

矢一ツの宛立形も者也矢取苗人青襖袴きく

足付りとり

此時矢ハ神政と因重 弓ハ毛身お初より也

少も即ちとん射く 一五五八年の初家の改め

ハ射も所さぬやうにとの儀は是大丈こ

的串と長さの事 是尺二寸五分程よりて的

と云ふこと三寸五分地より八寸地さまで寸になる

一能く被練可也

的場と事内庭なとありてるをテ云へて

的と左色 的場とてうりむこ

的と書ふ字と事 祕事取もハ口傳を云ふ

的杯と沙汰うはるまゐる

あゝ的射て或三献まで冷酒をこ也

小笠原宗人帳本末

一也云云

鳴弦之聲

一
右の射之式三献子で冷酒を之也
少々之系大帳平木
一也之之也

武方集

鳴弦之卷

柞塲河院嘉保二年八月天竺寺

八幡大寺義家着甲冑常り

第院南庭觀殿上三鳴弦而忽除

源家鳴弦起於此素尚家今統道

侍從者也鳴弦と候特氣と妹

怪と避乃例も多シタリ弓弦と鳴すとり

杜詩も鳴弦シタリ唐小女セ不一小

是亦相心なり此記法より左に幕目と
射云云法に照するなり
中と武兵取あうなりすなり今此相子
本と云ふは弦をとりて張る衛と云
そる事軍中に弦を二枚と立てて元
歩切の事此法は流来なり今
おと天子あはれの中谷舟の中湯に
少も花人未作して弓弦をとりて
宋と排とをとりて二韓退法の目と
弦とて歎と退と事有使少と歎
りりり吾約第一の秘術や
一弦の事此也云々とは迎く事

一 張子の半 二 也 三 とな 四 興く 五 々

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

目と分下りて暮目にして名酒と

類より夫も目と一分但此は其の意

夫も目と分下りて暮目にして名酒と

川名と放肉の毒と喰はの夫も目と

付の大半の毒と喰はの夫も目と

耳とともく上付弦とて腐る様よ

片多しあはる弦の用より夫も目と

白眼で夫も目と一分但此は其の意

弭と相當觀念としてらとたなる様と

一音の項又南音の貴法果は有来

と通南に八情大善降二遍は通長

必意安極二遍

一

如意安撫二遍

一 狐の項より魚を獲て法を有する二遍

一 耳

鼻目耳の社の所が少狐
と多く之の社より社



古口所二遍

一 鹿を捕りて死なせしめ因縁早なる付

南を捕りて法を有する自性身増

内護鹿道場法界通場之義別二遍

一 病人の時南を捕りて法を有する二遍

一 欲

鼻目耳の社の所が古き
人の心とやうなりしとて

大い前二遍

一 二月乃其用為所相大橋の下

人持のいふあり

一 如獅ふる先は日月つとてわうと

一 桑園寸法物とて人母とて人父

桑園とて桑園とて黒漆とて相大橋の下

向ふとて可なりとて羅形なりと

一 れと書けりとてわつ時のわつとて

とて可唱けれとて急々如律令と

一 遍りて唱なり

一 病人弱りて一とて中ふとて乃て村又

流るゝとて乃て村又村又村又

高き村又

清江先生文集卷之六

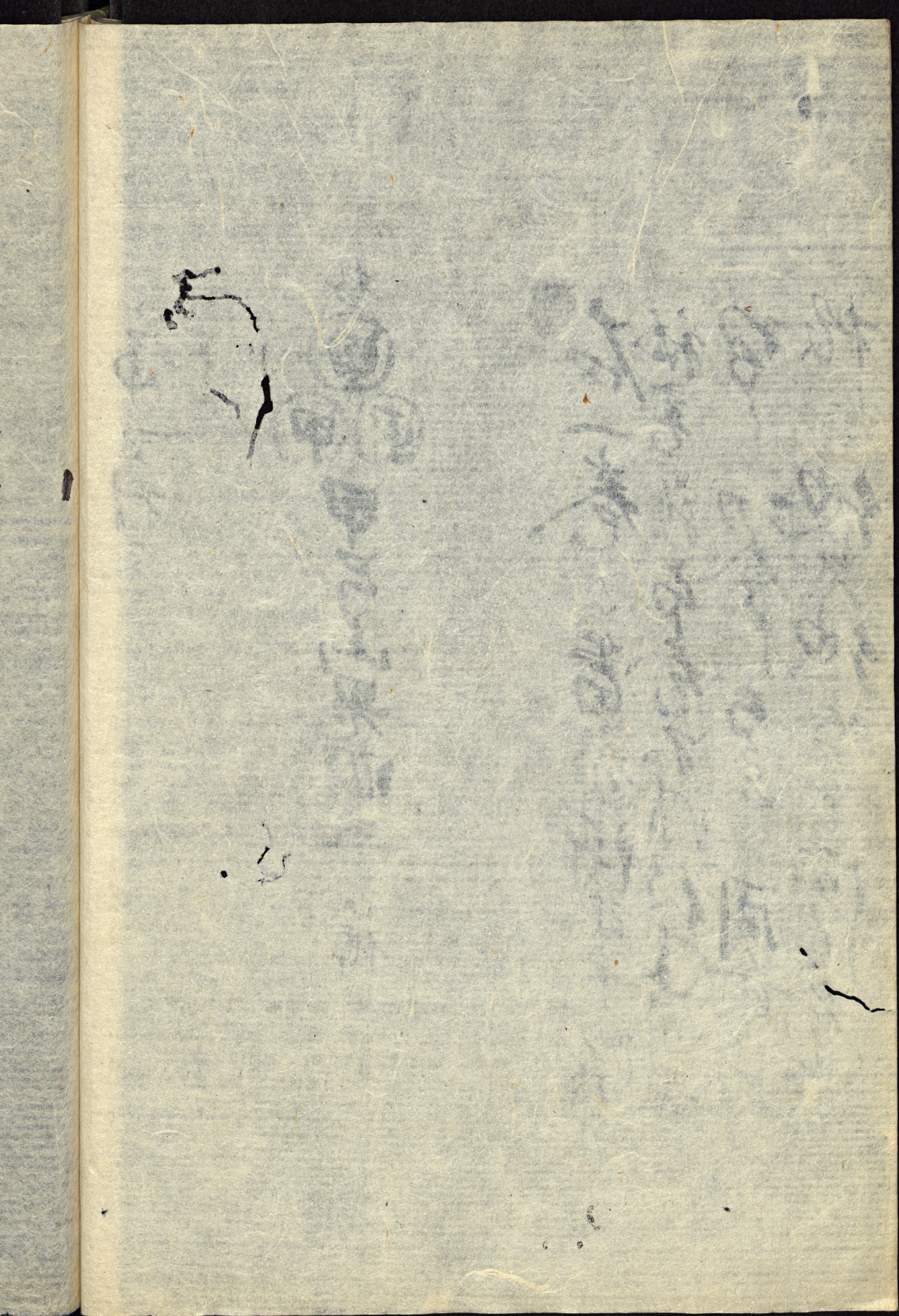
高子



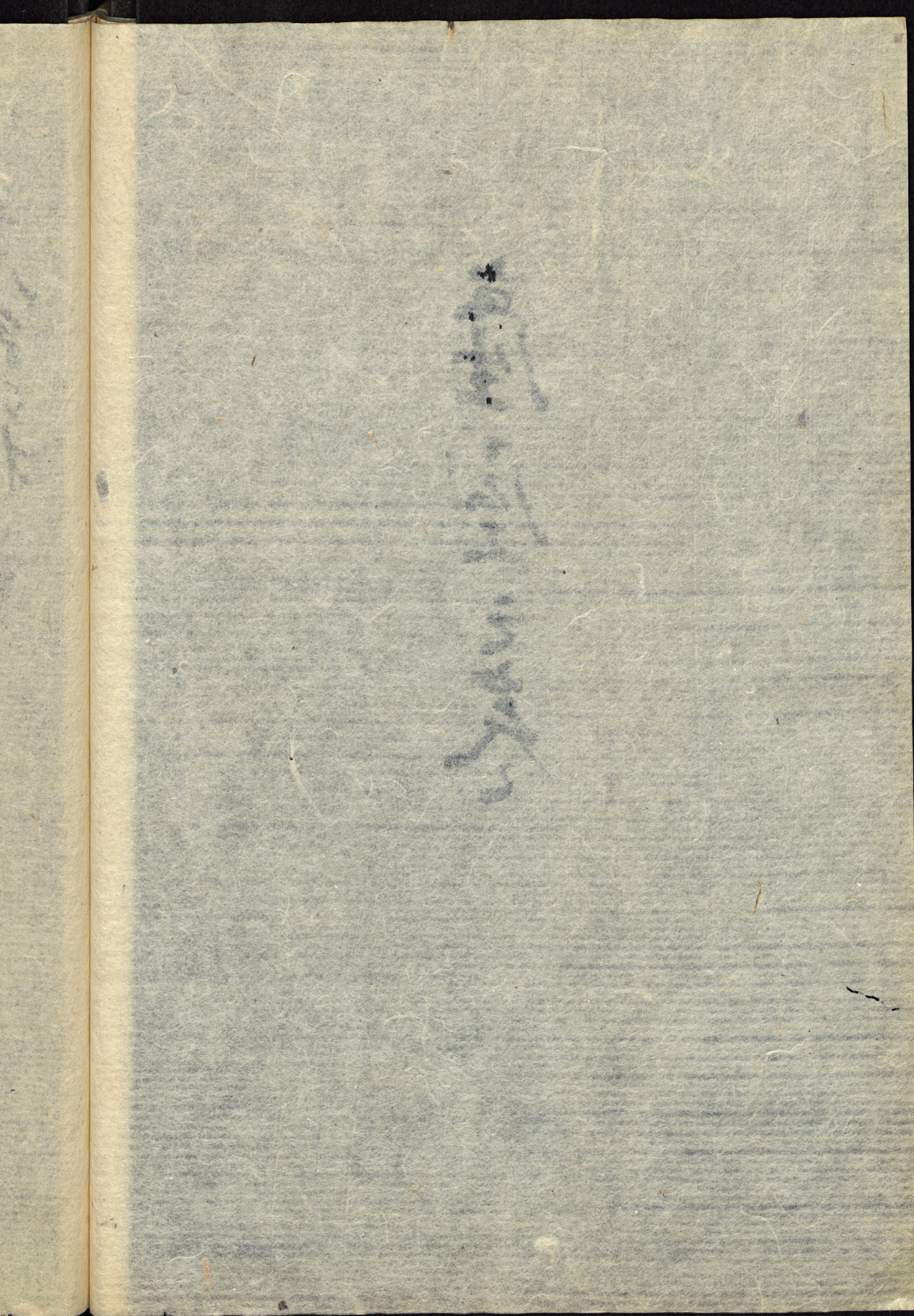
甲子山鬼明王

傳

右一卷古當家傳集
秘書然亦元不請教
習今校之平用取
根姑他見他音方
同補者也



五生
屋
之
卷



産屋之卷

八五鋪

業之田

三層

丁屋

拾二巻

但菜園

一 春屋酒松束白く酒一但長株ふ

破肉作り金銀ふく日月の金物あり

一 上巻月多相重移れ羽の事

一 法湯く柱の事

一 守棚調木く事

一 八五の札く事

一 家尊ふ支の音くし書く事

ハタの...

一 食滓子 支面 春を此繪可書事

一 主 子 此 展 風 事

一 庭 小 冬 木 同 季 此 葉 也 植 へ 一 但 指

乃 多 此 木 植 へ 一

一 庭 小 冬 木 同 季 此 葉 也 植 へ 一

一 主 子 此 展 風 事

一 食滓子 支面 春を此繪可書事

乃 多 此 木 植 へ 一

一 庭 小 冬 木 同 季 此 葉 也 植 へ 一

一 主 子 此 展 風 事



サ
ラ
ス

注

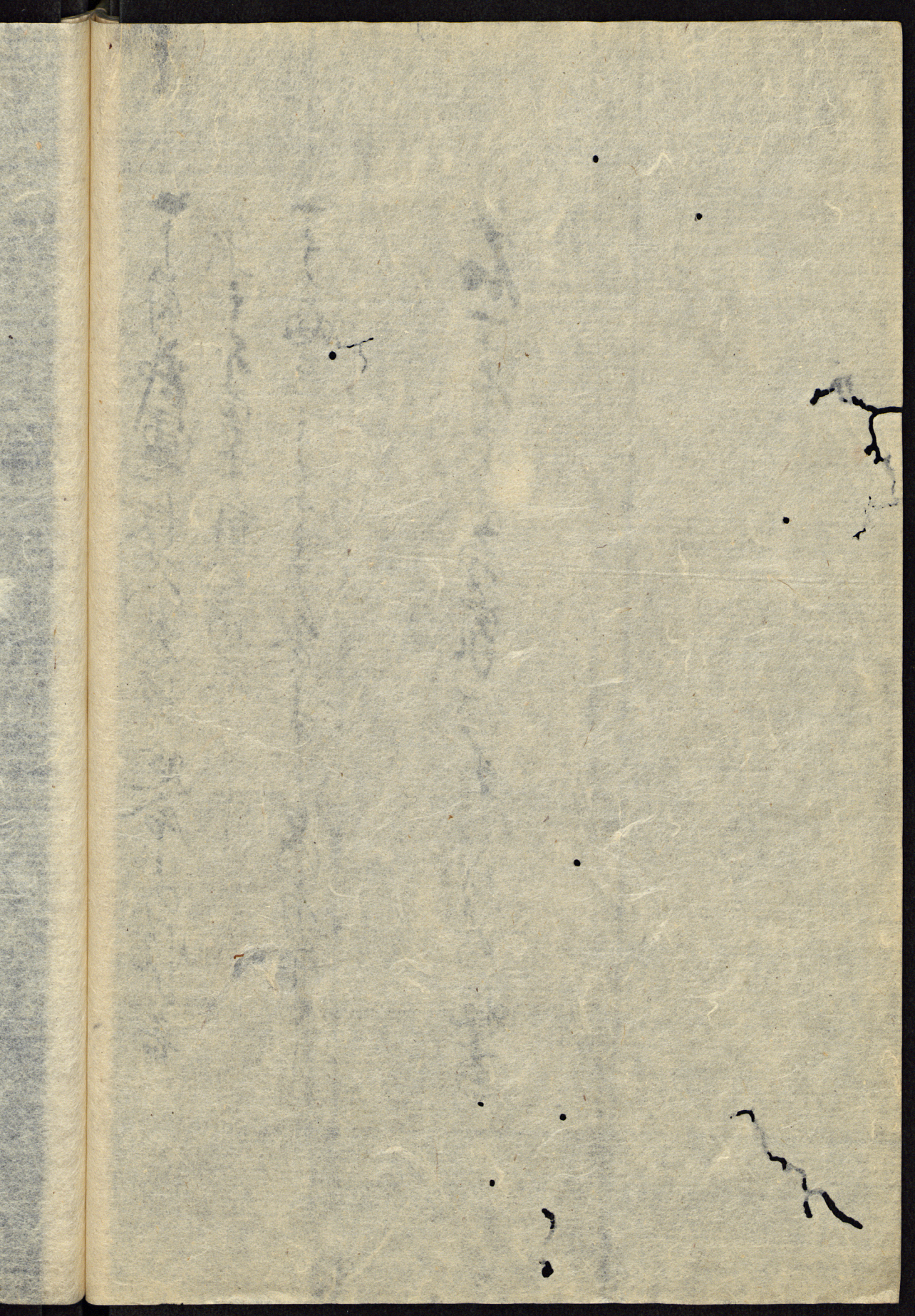
入女房元入に侍るく服飾

下時武運長久思賀延命の祈の者

此より軍士観念のり

一うぬきふふの事一はるり

右一まゝと高家ゆきしるはる



產屋吹才

武平

卷之四



1

~~SECRET~~

是を陰陽の火と云ふ

產屋道之

一 湯をよめ桶指飯とて人式す敷部ツ抄二平うぬこ
うむ返し部尺六寸とふち八寸部分九寸ニ成 宮名
と時ハ四二尺八寸いれとて二ツ宛に漏ハ三ツ宛に

一 御産桶指木とて十二有部人として産免行松と

弦木とふとともうそくを言サ

六寸七八九一尺二寸位すぶちいり行ふと

一 産屋を度奉式ハ懷妊とて

夜一番のちまのゆくと一交小産包く後り指手掛

に或三献とて祝をいさうぬかきこる一

お神八ゆると何と土器と祝をいさう産乃月ニ付

とて多きいり行

一 産屋をいさう子取上とて

十二又吊おつ入賀計一ふさ入とてとて又食納

と指桶をわつ上へ掛るに祀神ををれとて多きいり

一 産乃月名持、産屋その親を寄りて産桶

十二支糸がつゝ入製針一ふさ入るうくそ又念納

こね端をわつゝ上へ括るこね袖ををれまこまを

一 肘の緒次時ハ魚その製之寄市産桶も十二小力

とせ魚その尾次先十二小力まゝあゝそ免て鉄

の小力までむ竹小力までまゝはあゝねえ心をこつま

て其上までほくこゝこゝは信

一 子上ケ納ハ布と丸綿まで水残取まこ

一 ふうふ湯ハ糸乃洗けへ塩を少色入こ目とおむし洗こ

一 カハ洗十二うつき十二てうこ膝の緒尾きうく二ッ

一 各く産桶納付こ納やうは信あゝ

一 沖産桶納付あゝ事成まゝ納一魚その

一 名先胞衣のうこは信有る

一 産産なうハ忌めいこゝて忌めお整いこ道まゝ

一 おむしまゝきしこゝ

一 糸て三月乃肉ハうち糸と製とほくちあゝこ

おいさかばし女子をいふなり社とをいふなり

女子なりい女房者守はまとい、生記の同僚

一 七つ目といふ社七代世に初なりなりなり

先と祝儀とすは

一 墓目生敷其事横九人古は言ふ何我れ事なり

家持棟東西に言ふ九人九人を廊下からいふ

は付新孫の別紙なり

一 宮持御孫なる言ふ三子に言ふに内持前板を

持方にいふなり

一 誕生後下なりと事あり社とも地主人に

言ふ横平産屋乃といふ言ふ言ふ言ふ

納千に物を埋むといふなり然るに言

深なり

一 産屋此内へ入装束なりなりなり千世

政の物に事なりなりなりなりなりなり

たしなむ女一善なり事一善なり

た

し

な

む

女

誕生喜目之次第

新刊
日本書目

新刊
日本書目

誕生後同次書

一可射時事何如と生れ方に別射と男子よハ
七の女子ハ三の可射矢ハ片目よ此射ハ一度射ハ
肩射入と酒と可吾

一城と遠され又七枚の城ハ星城裏と表ハ
て立馬の縁ハ白縁の新ハ作と

一的ハ馬を切目とあら下色して立馬と末廣ウ
里ハ扇三間をきいて骨乃るはさして立馬と竹の
串とて要目乃骨をさしてとち白馬ハの立馬と
ちやうある何とせば

一 射手ハ人ニ由ラズ青襦袴ニて馬帽子ニ着座ス
ニハ海老ノ

一 弓ニ由リハ新着子ニ三枚敷ニ座ニ至リ前後ニ即板
敷ニ中ニ着座スニ後乃ニ此ハ瓶子二具靴子提

者置ス者ハ射計是布拂衆ニ

一 頭着極ニ重ツニ射テ肌を入酒越ニ取取前乃ニ着

メテ酒をを酒ニ着座ハ此座ニツテ坐シ此ノ酒射

計ニ可ナル同着ニノ先着ニテ相上乃

重シク加フニ座者ニ亦ニ及射ハ次乃ニ重シク三度

以上メツツ重シクニ座乃ハ相上者

一 射時ハ的を射ルニ似ル思ヒ乃ニ少ナ方ニ射ニ能ク

ニハ得

一 射あきニ射ル方ハ小神ニ至リ出物をリ酒蓋ハ入ル

ニ法取テ戴キ相肩ニサ掛酒を添リ持下ハ此ニ乗テ

一 村あきそて村より小神一室より生れぬ 神は

之清夜て戴き相肩より掛渡りて下しぬを衆信
何方より作れ方角ハ産屋をいふ事こそ所とあり
産屋をいふ目て村よりハ 如此三夜可村なる後ハ
夜討てもハ 里保の地此三夜可村ても能く可なり
従生乃其目めけ羽はさつぬ

一 弓立可村を自屋よりとてこゝへて持を的なりと云く
日又村よりかしてハ多井と地く井端ハ地ハ井端ハ指子
と云くハさうりハ云程の指子と是と云たさハハと謂あり
一 産村を無門海知と云ふやうに又云番めよりハ
いりある此一極乃看きて三夜宛者ハハハと云ハ
之取取極加ハ極子と云ハ何ハと云ハ可
取ハハハ

